

派遣留学生帰国報告書

* 帰国（復学）後の情報を入力してください

記入日	2018年7月25日
所属学部	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

1. 留学先について ※引越したため ○=キャンパス内寮(半年) △=民間アパート(半年)と区別し記載

留学先大学名	Mbnash University										
留学先所属学部等	Department of Arts										
留学期間	出発日	2018年7月9日	入学日	2017年7月11日	修了日	2018年6月19日	帰国日	2018年6月22日			
住居	○ 大学(紹介)の寮・アパート	△ 民間アパート	その他()								
	通学時間	1時間				○ On campus	△				
	通学方法	路面電車・電車・バスの乗り継ぎ(民間アパート時代)									
	居室スペース	○, △	個室	()	人部屋	その他()					
	共有スペース	○	完全個室	△	キッチン	△	トイレ	△	バス		リビング
食事	自炊	60%	学食	10%	外食	30%	その他	()			
保険	海外旅行保険(名称)	AIG損保									
	派遣先大学指定の保険(名称)	OSHC					<input checked="" type="checkbox"/> 強制加入				
	その他										
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)										
	成田 ⇄ メルボルン(飛行機) ⇄										

2. 留学にかかった費用について

総費用	420万 円					
出どころ						
自費	貯金	円	アルバイト	円	その他	円
援助	○ 両親	420万 円	家族・親戚	円	その他	円
奨学金	JASSO	円	その他名称()	円		
その他	千葉大学助成金	円	その他()	円		

2-1. 財政管理の方法

渡航時	○ 現金	20万 円	その他()	円
留学中	○ 海外送金	キャッシング	その他()	

2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	支払いなし
住居にかかった費用	全額クレジットカード
その他	現地口座の開設→デビットカード

2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)		現地の夏休みに一時帰国しました。	500,000	円
海外旅行保険			260,000	円
OSSMA			29,160	円
査証・在留許可証	AUD	20	1,660	円
住居	AUD	16,000 (寮: \$1000 × 6 + アパート)	1,354,500	円
食費	AUD	7,200	610,000	円
通学に要する交通費	AUD	270	22,900	円
教科書、教材費	AUD	40	3,400	円
その他大学に支払った経費		0	0	円
光熱費	AUD	0	0	円
その他 (遊び)	AUD	3,600	314,000	円
その他 (サッカー部)	AUD	1,000	85,000	円
その他 (国内旅行費)	AUD	4,000	340,000	円
その他 (海外旅行費)	AUD	8,000	680,000	円

3. 学業面

履修科目名	種類 ^{ex. 正規、聴講}	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	無	無
1 Foundations of epidemiology	正規	6.0	○	有	無
2 Global Health: Opportunities and challenges	正規	6.0	○	有	無
3 Global disasters: Catastrophe and social change	正規	6.0	○	有	無
4 Health, culture and society	正規	6.0	○	有	無
5 Mobile worlds: Borders, displacement and belonging	正規	6.0	○	有	無
6 Extreme earth! Natural hazards and human vulnerability	正規	6.0	○	有	無
7				有	無
8				有	無
9				有	無
10				有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

将来は最終的にWHO・国際赤十字で働きたいと思っていたため、直接的に生きる知識やスキルを習得することができる授業を履修したいと考えていました。自分が学びたいと思う分野に加え、実際に日本赤十字社・の方・WHOの Director-Generalの方などからの直接のアドバイスをもとに授業を選択しました。登録方法は、現地のオリエンテーションの時に全員一緒にします。教授が細かく手助けしてくれるので、登録に際して心配はいりません。出国前に履修する授業を決めて先方に提出しますが、現地で変更できます。実際僕は現地で全て変更しました。

1つのコースは1時間のレクチャーと2時間のチュートリアル(ディスカッションのような授業)で構成されています。チュートリアルでは、教授のレクチャーを聞いてそれについて深めていくような実践的な授業内容が用意されています。レクチャーでインプットしたことを、しっかりと理解や解釈を自分なりに落とし込み、それをアウトプットする機会があることは、とても優れていると思います。また、レクチャーはすべての授業が録音されており、聞き逃したところを後日自分のパソコンで何度でも聞きなおすことができます。私は、授業内での理解度が60-70%で、残りは放課後に図書館に行ってレクチャーを聞き直すなど復習によって補っていました。

3-3. 語学力について

高校留学を経験していたため特に支障なく現地で生活できるくらいの語学力でスタートしました。授業で出てくる専門用語がかなり難しいので、その点においてはかなり苦労しました。新しく来た日本人留学生が、僕が現地生まれ・育ちだと誤解するくらいナチュラルに英語にてコミュニケーションを取れているそうなので、その点において成長を感じられます。また、TOEICにおいても800点から950点まで伸びたので、数値的にも成長が見られるかなと思います。

3-4. 図書館など学内施設について

メインであるClayton Campusには図書館が3つあり、どれも大きくカフェなども併設されていてキレイで、12時まで開いているのでとても便利。学内には、Sybwayをはじめとするチェーン店、フードコート、コンビニ、ジム・プール、サッカー場をはじめとする各種競技場、銀行、シアター、バー、旅行会社、携帯会社、薬局、バスターミナルなどがあり、十分キャンパス内で生きていけます。ただ、ショッピングセンターはバスで10分ほどのところ。

3-5. その他

海外派遣留学による国際教養学部の単位互換認定については、全く期待できない。年間取得可能単位数(40単位)の半分ほど(15-25単位)しか互換してもらえない。

4. 生活面

4-1. 住居について

最初の半年は、Mbnash Clayton Campusの寮に住みました。自分一人用の部屋に机・椅子・ベッド・クローゼットがあるだけで、バス・トイレ・キッチンと同じフロアの人たちと共用です。古い雰囲気がありますが、住むのには快適で、インターネット・光熱水道費は家賃に含まれています。モナッシュの寮はだいたい一律月10万円です。キャンパス内の立地の割にセンターまで徒歩15分ほどかかるのと、近くに買い物ができる場所がないため、バスで15分ほどのショッピングセンターに食料品や日用品を買いに行くこととなります。モナッシュはモナッシュだけで完結している感じがあるので、楽しいですが利便性は良くないです。後半は、メルボルン中心部・メルボルンセントラル駅の近くの、バス・キッチン・トイレが備わったアパートメントに住みました。光熱水道費は含まれておらず、家賃も月約20万円と高額でしたが、それだけの価値のある貴重なシティライフでした。モナッシュまで50分かけて通学しないといけなくなったのがネックでしたが、いつも電車に乗っている間はパソコン開いて勉強できるだけの余裕がありました。マレーシア祭りなどのイベント、全豪オープン、コンサート、スポーツの試合などはすべて中心部で行われるので、利便性がとてもよく、いろいろなイベントに参加する機会が増えました。また、Melbourne Uni やRMITなど他の大学がシティに集結しているので、学外で彼らとの交流の機会が増えたことはとても良かったです。なんとといっても中心部にはお店やレストランが集まっているので、毎日の放課後や帰宅途中が刺激的な毎日でした。

4-2. 食生活について

朝食は基本食べないか、キウイを食べます。お昼は友達と何か買って芝生や広場で座って食べるか、授業が連続している時にはKFCで一人で素早く済ませて授業に行くこともありました。夜ご飯は、基本的には友達と作って食べたり、寮のカフェに行き行って食べていました。メルボルンは大都市ということもあって、CollesやWoolworthsなどの普通のスーパーマーケットでも日本食は売っていますし、日本食・アジア食専門店がたくさんあるので、特に食生活に困ることはありませんでした。また、メルボルンは移民がとても多いので、いろいろな国のレストランがたくさんあり、シティのレストランでいろいろな国の料理を食べに行くことを楽しんだりもしました。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

学内では、全学インターネット環境が整っているので困ることはありません。寮についても同じです。アパートメントもインターネット環境込みでした。携帯電話は、日本のiPhoneのSIMロックを解除して持って行き、現地でSIMカードを購入して、現地の携帯電話として使いました。この方が安く早くデータも普段通りなので、わざわざポータブルWi-Fiや現地用の携帯電話を購入したり借りるよりも、コストや効率面ではるかに良いと思います。

4-4. 服装について

夏は40度近くまで上がるので暑いですが、湿度が非常に低いので汗はほとんどかきません。男子は短パン・タンクトップにサンダル、女子はほぼビキニのような軽装で、みんなとにかく楽でいつでも海に入れるような格好です。春と冬もほとんどみんな半袖半ズボンといったような軽装で、冬でもそんなクレイジーな格好をしている人もいます。肌が分厚いのでしょうか。冬はかなり寒く雨が多いので、コートは絶対必要です。僕の見ただけでは、アジア人は寒がりでかなり着込んでいて、他国の人は季節によらず軽装なイメージです。

4-5. 健康管理について

野菜とフルーツをしっかり摂取するように気をつけました。お酒は高いので、何かイベントがあるとき以外はほとんど飲むことはありませんでした。生活サイクルも一定で、とても健康的な生活ができたのではないかと思います。特に危険な感染症などもないので、病気よりも怪我に気をつけるようにしました。

4-6. 保険、OSSMAの利用について

帰国2週間前から体調を崩し、病院にかかることになりました。AI G損保の海外旅行保険に加入していたので、キャッシュレスで日本語対応の病院に受診することができました。日本に帰国してからも病院に通っていますが、海外で発症した病気なので治療費が全額カバーされるのが大きいです。OSSMAを利用する機会はありませんでした。

4-7. 課外活動について

大学の体育会サッカー部とジャパニーズソサエティに加入していました。サッカー部では、週3回の練習と毎週末の試合があったので勉強との兼ね合いが難しかったです。同じチームでシーズンを戦う中で固い絆を築くことができました。サッカー部単位でディナーにでかけたり遊びに行ったりする機会もあったので、とても充実した時間を過ごすことができました。ジャパニーズソサエティでは、日本を好きな外国人と一緒に日本食を作って食べたり、日本文化の体験イベントを開催したりしていました。また、短期留学でモナッシュにやってきた日本人学生に対して、モナッシュ生活のサポートを行ったりしました。ソサエティ自体は100人以上の大規模なものでしたが、日本人は10人ほどしかおらず、しっかり仕事や交流に力を入れました。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

学外では、高校留学時の友達と合流して遊ぶことが多かったです。特に留学後半は私がメルボルンセントラルに住んでいたこともあり、日常的にシティで合流して遊んだりご飯を食べていました。また、メルボルンの学生が集まるイベントを通じてクラブやバーで出会った他大学の人も仲良くなり遊んだりもしました。さらに、メルボルンの大学に留学している日本人学生のコミュニティも存在し、不定期で集まってご飯会やイベントに参加しました。特に、メルボルン大学に留学している優秀な学生との交流を通じて、就職活動や将来のキャリアについてなど、熱い話を交わす機会もあり、決して楽しさや学業だけでなく、留学を通じてのみ得られるであろうものを得ることができました。

4-9. 日本から持参してよかったもの

リップクリームや化粧水などの化粧品。オーストラリアでは日本のものが人気でどこでも売っているがかなり高額。基本5倍から10倍。お米の計量カップ。インスタント食品(麻婆豆腐の素など)。スポーツ用品

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

ノート類、ファイル類、大量の服(結局同じような服しか着ない、日本ほどオシャレする必要がない)

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

オーストラリア人は(友達や教授が自分で言っていました)、アメリカの人に比べて、外国人に対して優しくありません。アジア人はアジア人同士で固まってしまう傾向が強いらしく、オーストラリア人も特にアジア人が自分のグループに入ってくるだろうとは思っていないそうです。また、モナッシュがマンモス校であるがゆえに留学生の数も膨大で、留学生と正規生の区別がつかないため、とにかく自ら勢いでコミュニティに入っていくことはすごく重要です。受け身で待っていても誰も気にかけてくれないことが多いです。僕も自分から押して入ったコミュニティも少ないので、確かにそのような傾向があると思います。マナーについては、電車では大きな声で話をしたり通話したり、音楽かけたりとやりたい放題な人もいますが、みんな特に気にすることもなく平和な感じでした。びっくりしたのは、オーストラリア人の友達が週7日、ステーキを買ってきてはフライパンで焼き、フライパンのまま食べるという生活をしていました。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行

-【オーストラリア・シドニー(就活イベント&観光)】2017年8月(3日間)、10万円弱
 【ニュージーランド・南島(クライストチャーチ・クイーンズタウン・マウントクックなど)(観光)】2017年11月(6日間)、20万円弱 【東南アジア旅行・インドネシア・シンガポール・タイ・ブルネイ・マレーシア(観光)】2017年11, 12月(1ヶ月)、約70万円 【オーストラリア・メルボルン(グレートオーシャンロード観光)】2018年3月(3日)、5万円弱 【オーストラリア・ブリスベン・ゴールドコースト(観光)】2018年4月(6日間)、15万円強
 【オーストラリア・メルボルン(温泉・フィリップ島などその他観光)】10万円弱

その他 *気分転換やストレス発散法など。

僕は気分転換は必ず外に出て、サッカーをしたりシティを歩いたりヤラ川(メルボルン中心部を流れる川)沿いを歩いたり、外の空気を吸って気分転換します。モナッシュ周辺は坂道が多いため、ランニングなどのトレーニングにはちょうどいいです。シティは、ビル群や川沿い、博物館沿いなどをランニングするととても良い気分転換になりました。

5. その他

5-1. 留学先大学について

モナッシュ大学は、オーストラリア・メルボルン郊外にある州立大学で、総学生数は75000人ほどです。世界大学ランキングでは60-80位とかなりレベルの高い総合大学で、医学と教育学に強いと言われています。本キャンパスであるClayton Campusをはじめ、国内4つと海外3つのキャンパスを持ちます。キャンパスはとても広く綺麗で、2018年度に行っていた大規模な改装工事もそろそろ終わりさらに整備されたのではないかと思います。さすがオーストラリアの大学と思うほど人種的・文化的に多様性に富んでおり、留学生の数も多く、海外学生の受け入れ態勢は非常に整っていると思います。教育レベル、教授陣、スポーツ、学内施設の全てにおいて高いレベルのベネフィットを受けることができます。メルボルン自体も「世界の住みやすい都市ランキング」1位を7年連続で獲得するなど、非常に住みやすく学生に優しい街です。所在地、規模、クオリティーの面でここまで揃っている大学はなかなかないのではと思います。かなりオススメです。

5-2. 留学希望者へのアドバイス

モナッシュ大学は、何よりも優秀な学生と教授陣が集まっている総合大学です。日本の大学生とは正反対で、大学は学ぶために行くという風土の高いオーストラリアでは、すべての学生が勉強熱心なため留学生にとってはとても質の高い学びをできるメリットがある反面、勉強にキャッチアップしたり試験で合格したりすることはかなりハードルの高いことだと思います。しかし、泣いても笑っても1年間という時間的制約の中で一生懸命に頑張り学びを吸収するには最適な環境だと思います。留学生の受け入れ体制もかなり整っていますし、ぜひチャレンジしてみてください。大変さと楽しさの両方を最大限に感じられる留学になると思います。

5-3. 留学を終えて

1年間留学してたくさんのことを学びました。授業では公衆衛生学や疫学、災害学、開発学、移民学などのより専門的なことをたくさん学びましたし、学業以外の面においてもサッカー部や友達と過ごしたりなどの普段の生活からもたくさんのことを学びたくさんの刺激を受けました。あっという間に毎日が過ぎ去っていくような日々で、とても刺激的で夢のような1年間でした。おそらくもう学生時代に留学することはないと思いますし、たちまち就職するので次の海外は海外駐在などの仕事関係で行けたらいいなというところです。さすがに、もうオーストラリアはお腹いっぱいなので、他の国に行きたいです。それでも、高校留学時からずっとずっと憧れてまた戻ってきたいと思っていたモナッシュ大学がたまたま千葉大と提携を結んでおり、しかも自分が交換留学生としてモナッシュで学べるチャンスが来るとは、思っていませんでした。本当に留学できて良かったと思いますし、サポートしていただいた方々には感謝しかありません。モナッシュで学べてよかったなと心から思います。本当に有意義で心から幸せな留学生活でした。ありがとうございました。